

# スキル実行にかかわる要因に配慮した ソーシャルスキル教育の実践的研究

○渡辺 睦 (いの町立枝川小学校)

合田佳子# (高知県心の教育センター)

キーワード：ソーシャルスキル教育，ソーシャルスキル実行，対人関係ゲーム

## 目 的

ソーシャルスキル教育 (SSE) の実施による効果は報告されてきているが，金山ら (2004) は SSE の効果には個人差があり，SSE によりソーシャルスキルに関する知識や技術を獲得しても，実行しない子どもがいると指摘している。そこで本研究では，小学生のソーシャルスキル実行の実態を把握した上で，スキル実行にかかわる要因について検討し，それらの要因に配慮した SSE を行うことで，その効果を実践的に検証することとした。

## 研究Ⅰ 児童のスキル実行にかかわる要因の検討 方 法

**対象** A 小学校 3～6 年生，8 クラス，220 名。学級担任 8 名。

**時期** 2015 年 6 月下旬～8 月初旬。

**介入** 学級単位で 1 回 15 分の SSE を 2 回ずつ実施した。ターゲットスキルは「あたたかいメッセージ」のスキルとした。

**調査** ①スキル実行尺度：藤枝 (2012) の目標スキルに対応した児童用評定用紙の 4 つの目標スキル領域から，「あたたかいメッセージ」のスキルの領域 4 項目，5 件法。研究Ⅰでは，「感謝」と「気づかい」のメッセージの得点のみ使用した。②親和動機尺度：藤枝・新井 (2009) の児童用親和動機尺度 (14 項目)。5 件法。③楽しい学校生活を送るためのアンケート (Q-U) 4 件法。

## 結果及び考察

分析対象は，調査回答に不備のない児童 183 名。**SSE 果の効**：まず，スキル実行，親和傾向，拒否不安の SSE 前後の平均値間に差があるかどうか，対応のある t 検定を行った。その結果，スキル実行では有意差が認められず，効果量も極めて小さかった ( $t= .70, p=.487, r=.05$ )。しかし，親和傾向 ( $t=2.78, p=.006, r=.20$ ) では有意差が認められ，小～中程度の効果が認められた。また，拒否不安 ( $t=1.94, p=.054, r=.14$ ) では有意傾向が認められ，小程度の効果が認められた。

**スキル実行の要因分析**：スキル実行の要因を明らかにするために，獲得したスキルを実行する「実行群」とスキルを獲得していても実行しない「実行欠如群」に 2 群に分類した。「スキル実行」に影響を与える要因として，親和傾向，拒否不安と「友人との関係」，「学習意欲」，「学級雰囲気」，学級満足度尺度の下位尺度である「承認」，「被侵害」について，「実行群」と「実行欠如群」の間に差がみ

られるかどうか，対応のない t 検定を行った。その結果，親和傾向 ( $t(146.05)=2.80, p=.006, r=.23$ )，拒否不安 ( $t(123.78)=2.48, p=.015, r=.22$ )，学習意欲 ( $t(145.31)=3.52, p=.001, r=.28$ ) において，有意差と小～中程度の効果がみられた。

Table 1 実行群と実行欠如群における親和動機尺度と Q-U の平均値の比較

|      |        | 平均                       | 標準偏差         | t 値  | p 値     | 効果量(r) |
|------|--------|--------------------------|--------------|------|---------|--------|
| 親和動機 | 親和傾向   | 実行群 30.53<br>実行欠如群 28.09 | 4.73<br>6.43 | 2.80 | .006 ** | .23    |
|      | 拒否不安   | 実行群 31.71<br>実行欠如群 29.79 | 3.46<br>6.13 | 2.48 | .015 *  | .22    |
|      | 友人との関係 | 実行群 10.45<br>実行欠如群 10.10 | 1.57<br>1.91 | 1.31 | .191    | .10    |
|      | 学習意欲   | 実行群 10.30<br>実行欠如群 9.35  | 1.46<br>2.01 | 3.52 | .001 ** | .28    |
| Q-U  | 学級雰囲気  | 実行群 10.34<br>実行欠如群 10.24 | 1.49<br>1.77 | .41  | .683    | .03    |
|      | 承認     | 実行群 19.62<br>実行欠如群 18.89 | 3.28<br>3.77 | 1.35 | .180    | .10    |
|      | 被侵害    | 実行群 10.01<br>実行欠如群 10.12 | 4.02<br>4.51 | .17  | .864    | .01    |
|      | 学級満足度  |                          |              |      |         |        |

## 研究Ⅱ 親和傾向と学習意欲に配慮して行う SSE の効果の検証

## 方 法

**対象** 研究Ⅰと同様。

**時期** 2015 年 10 月初旬～12 月初旬。

**介入** 学級単位で 1 回 15 分の対人関係ゲームを 2 回 1 回 15 分の SSE を 2 回実施した。

**調査** ①実行尺度：研究Ⅰと同様のものを用いたが，SSE 3・4 回目のターゲットスキル「はげます」と「ほめる」のメッセージの得点のみ使用した。

②親和動機尺度

## 結果及び考察

分析対象は，調査回答に不備のない児童 173 名。親和傾向を高める対人関係ゲームと学習意欲に配慮した SSE を組み合わせた介入の効果を検証するため，スキル実行，親和傾向，拒否不安について，介入前後の平均値間に差があるかどうか，対応のある t 検定を行った。その結果，スキル実行においては有意差が認められ，中程度の効果も認められた ( $t=4.62, p<.001, r=.33$ )。また，親和傾向においても，有意差が認められ，小～中程度の効果が認められた ( $t=2.94, p=.004, r=.22$ )。しかし，拒否不安については，有意差は認められず，効果も極めて小さかった ( $t=.84, p=.404, r=.06$ )。親和傾向と学習意欲に配慮して SSE を実施した結果，通常の SSE を行った場合と比較すると，「スキル実行」が有意に高まり，効果も大きいことが明らかになった。